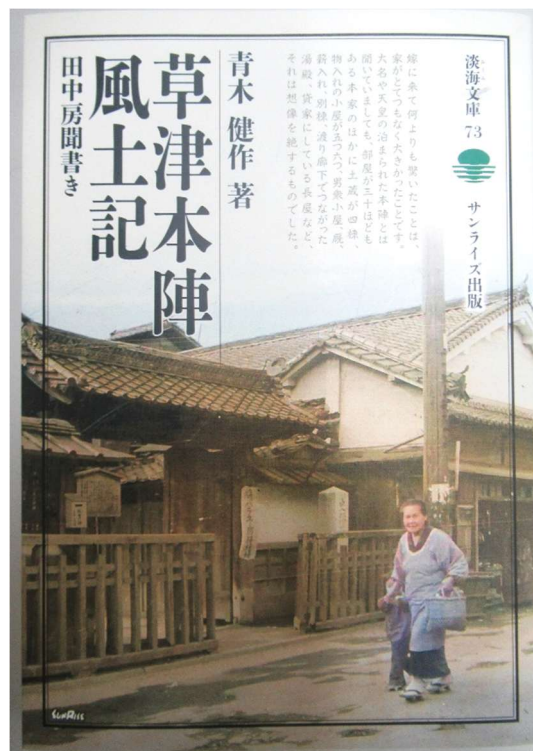


草津宿本陣を守り伝えた生の声

青木健作（2024）『草津本陣風土記―田中房聞書き―』

サンライズ出版」



『草津本陣風土記―田中房（ふさ）聞書き―』は、大正 13 年（1924）に 20 歳で隣の守山市から田中七左衛門本陣（現草津宿本陣）に嫁いだ田中房さんの話を青木健作さんが聞書きした書物です。昭和 60 年（1985）に『草津本陣風土記 田中房聞書き』が地平社から発行されていましたが、その後絶版となっていたため、令和 6 年（2024）に新版が刊行されました。

本書では、寛永 12 年（1635）頃より、東海道や中山道を往来する大名などが休泊する「本陣」の役割を約 240 年勤めてきた田中七左衛門本陣が、明治 3 年（1870）に本陣・脇本陣の名目が廃止され役目を終えてから、現代に至るまでの歴史や本陣当主の姿、当時の生活の様子が記されています。田中家は非常に信心深く、毎朝、仏壇や神棚、裏の竹やぶにあるお稲荷さん、そして御除ヶ門（およけもん）に祀られている妙見宮にお

参りをしていたことが記されており、本書を読むと田中家がいかに本陣を第一に考えた生活をしてきたか分かります。

また、本書では本陣の建物など維持する田中家の苦労が記されています。特に三章の「片隅の昭和史」では、昭和 14 年（1939）7 月から翌年 3 月にかけて、国庫補助を受けて、本陣の大規模な修理工事が行われましたが「戦争中も大工さんや庭師さんなんか年に一度くらい来ていただいて手入れをしてもらいました。」とあり、過酷な時期でも本陣の維持を続けてこられたことが分かります。戦後も、修理素材が乏しく人手不足など、維持管理するのは容易ではなかったことがうかがわれ「本陣」という由緒と歴史ある建物を守り伝えることの大変さが伝わってきます。

（令和 7 年 7 月・草津宿本陣 杉浦 智里）